

人と魚と海のネットワーク  
香川県漁連ホームページ  
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/



**JF** 高松市北浜町8-25  
TEL 087-825-0350  
FAX 087-851-0699  
JF香川漁連

## 「第44回放魚祭 さぬき市鴨庄で開催」

去る7月10日(水)午前10時より、県民に広く稚魚愛護と水産資源保護思想の普及高揚を図ることを目的とした、第44回放魚祭(主催:(一社)香川県水産振興協会、香川県東部漁業協同組合連合会、香川県漁業協同組合連合会、香川県信用漁業協同組合連合会、(公財)香川県水産振興基金、協賛:香川県、さぬき市、東かがわ市、高松市)がさぬき市鴨庄の小松真珠荘及び新開漁港において開催された。

44回目を数える今回は、天雲副知事、大山県議会経済常任委員長、大山さぬき市長、藤井東かがわ市長、勝又高松市副市長ほか水産関係者約100名が出席し、快晴の夏空と暑い陽射しのもと、式典や稚魚の放流などが盛大に執り行われた。式典は小松真珠荘で執り行われ、厳かな神事のあと主催者を代表して服部会長から、「稚魚愛護と水産資源保護の精神を、当地さぬき市から全国に発信するとともに、こうした積み重ねがより大きな輪となり、豊かな瀬戸内海を蘇らせることを願ってやみません。」と挨拶があった。その後、来賓の天雲副知事他の方々からご祝辞をいただき、続いて香川県立多度津高校海洋生産科の生徒6名に放流稚魚のお手渡しが行われた。



### 主催者挨拶をする服部水産振興協会会長

たくさんの大漁旗で彩られた新開漁港では、稚魚放流に先立ち、さぬき市立中央小学校5年生36名を対象に水産教室が実施され、児童たちは瀬戸内海の環境や漁業の特徴、魚の栄養等について勉強した。児童からは「お魚は大好き、家でもよく食べる。」との声が多く聞かれた。また、おさかなビンゴゲーム

ではおさかなキーホルダー、味付け海苔、食べるいりこ、小魚ふりかけといった豪華な記念品をもらい大喜びであった。

その後、式典出席者、中央小学校児童が、間嶋さぬき市議会議長の合図で稚魚の放流を行った。この日放流された稚魚はベラ5万尾、マダイ・ヒラメ各1千尾及びタケノコメバル5百尾で、これからの豊漁を祈願してさぬき市鴨庄の海に放流された。放流終了後、東讃地区各漁協の漁船16隻が出席者に見送られながら順次出港。地元地先に帰り、稚魚の放流を行った。また、放魚祭の一環として4~5月にヒラメ7万尾を、7月下旬にクルマエビ6万尾を東讃地区各地先において放流している。



### 児童たちと稚魚の放流

地元さぬき市、東かがわ市、高松市及び健全な種苗を提供していただいた香川県、そして漁業者の皆さん他、関係者各位の協力を得て放魚祭は盛況のうちに無事閉会した。来年度第45回放魚祭は、高松地区において開催予定である。

## 決定「香川おさかな大使」

香川県産の水産物をPR活動する「香川おさかな大使」の最終審査会が7月16日(火)漁連会館5階中会議室にて行われた。

今年で5回目を迎える「香川おさかな大使」は、さぬき海の幸販売促進事業の一環として行っているもので、大使には香川高等専門学校専攻科の中条文鈴さん(22才、高松市)、同じく武蔵野美術大通信課程の後藤美波さん(22才、高松市)2名が選ばれた。また昨年度から大使を務めている北村公美さん(22才)も引き続き大使を務める。任期は平

成25年9月1日～平成26年3月31日まで。

平成25年度の「香川おさかな大使」は、5月25日から6月25日までの募集期間中に県内から14名の応募があった。6月28日に書類による一次選考審査を通過した8名を対象に服部県漁連会長ら6人の審査員が面接などで審査を行った。個別面接では、「香川おさかな大使」に応募した理由や香川の水産物について知っていること等についての質問。一斉面接では自己PRや県魚ハマチの売り込み等を質問し、積極性や明朗性、豊かな表現力、熱意等を持つ人が選ばれた。

ロボット制御の研究を3年間行っているという中條さんは「来春から就職のため、香川を離れることになり、大好きな香川に恩返ししたいとの思いで、香川県産の魚のPRを頑張りたい」。魚を見ること、食べること、さばくことが大好きな後藤さんは「うどんだけじゃない、讃岐の魚の魅力を県内外に広めたい」と抱負を述べていた。



左から北村公美さん、後藤美波さん、中條文鈴さん

また、同日午後から開催された、さぬき海の幸販売促進協議会第1回会議では、平成25年度事業計画等について協議され、平成19・20年度の「ハマチ養殖80周年記念事業」、平成21～24年度の「さぬき海の幸販売促進事業」によって培ったノウハウを活用し、昨年度に引き続いて「さぬき海の幸販売促進事業」に取り組み、ハマチ、ノリ、イリコをはじめ、県内水産物の販売促進、販路拡大を積極的に行うこととなった。

事務局体制では昨年度同様、「総務・食育グループ」、「ハマチグループ(フグ・サワラ・タコなど含む)」、「ノリ・イリコグループ」の3グループに振り分けられた。

平成25年度の各グループの主な事業計画は下記のとおり。

「総務・食育グループ」ではPRイベント事業として、さぬきうまいもん祭りに出展するほか、各地

で開催されるイベントで地元市町・漁協等と連携して、県産水産物のPRを行う。また、ハマチ、ノリ、イリコのほか旬の地魚やカキ等を利用した水産食育教室の開催とテキストの作成を行う。

「ハマチグループ」では、10月から年末にかけて、県内外の量販店においてハマチを中心とした県産水産物の試食販売等により販売促進を図る。また、県産ハマチの海外輸出を目的とした販売とフェアの開催及び、新規販売ルートの調査・開発を図る。オリーブハマチの地産地消の促進や全国的な販路拡大を図る。県産水産物を食材に使い、消費者への魚食普及への取り組みを推進し、消費拡大を図る。

「ノリ・イリコグループ」では、初摘み香川県産ノリ認証制度の充実や品評会の開催。また、「新ノリ祭り」やPRイベントの実施。地域ブランド「伊吹いりこ」のPR活動及び県産イリコを使用した新商品の開発等を行う。

## 香川県漁協職員研修会の開催

7月26日(金)漁連会館6階大会議室において(共催、香川県漁協職員協議会、香川県漁業協同組合連合会、香川県信用漁業協同組合連合会、全国共済水産業協同組合連合会四国事業本部香川支店)漁協職員研修会が、県下漁協役職員約90名が参加し開催された。

主催者を代表して職員協子安会長の挨拶後、講師の農林中央金庫高松支店JFマリンバンク四国地区担当部長宮本雅彦氏により「最近のコンプライアンス動向について」下記項目と不祥事発生事例についての講演が行われた。

- 1、コンプライアンスとは何か。
- 2、なぜコンプライアンスが求められるのか
- 3、漁協におけるコンプライアンスの重要性
- 4、「コンプライアンス」実践の正しい理解



熱心に聴き入る参加者